



大阪市生物多様性戦略

～ 生物多様性の恵みを感じるまち ～

大阪市環境局環境施策課



生物多様性に関する国内外の動向



1992年 生物の多様性に関する条約 採択

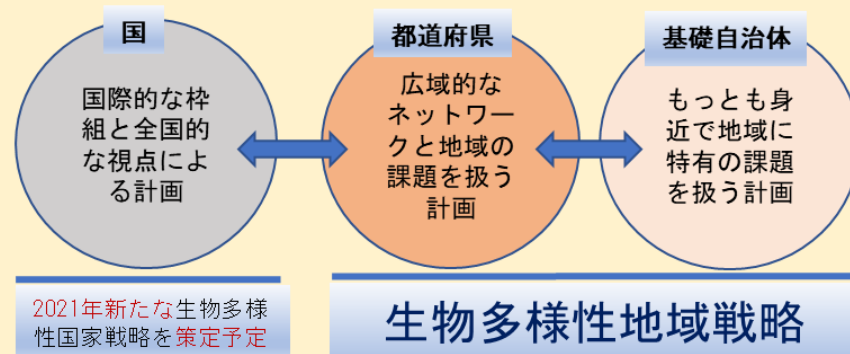
1995年 生物多様性国家戦略 策定

2008年 生物多様性基本法 制定

2010年 COP10において愛知目標 採択

国内外で生物多様性保全の
枠組づくりが進捗

生物多様性条約



国家戦略と都道府県・市区町村の地域戦略との関係
(出典 PANCES)

2018年3月 大阪市生物多様性戦略 策定

➡ 2021年3月に計画期間満了を受け、次期戦略の策定

2021年(秋) COP15開催予定 (2020年～新たな世界目標設定)

2021年度内 次期国家戦略の策定

※COP15で決定が見込まれるポスト愛知目標の体系ふまえる



＜＜2050年 めざすまちの姿＞＞

「生物多様性の恵みを感じるまち」

大都市でありながらも身近なところに貴重な自然があり、
然や生き物との関わりを実感できるまち

生物多様性の恵みを受けていることを多くの人々が感じ、
生物多様性を守る行動につなげているまち



市民、環境NGO/NPO、事業者、研究機関、教育機関、
行政など、多様な主体との連携・協働により実現



戦略の位置づけ

「生物多様性基本法」第13条に基づく生物多様性地域戦略

戦略の計画期間

2050年のめざすまちの姿を展望しつつ、計画期間は2021年度から2030年度までの10年間

戦略の目標

- ・2050年までのめざすまちの姿
「生物多様性の恵みを感じるまち」
- ・2030年度までの目標
 - (1) 生物多様性の保全と持続可能な利用(※1)を促進する。
 - (2) 生物多様性の保全のため、多様な主体との連携・協働を推進する。
 - (3) 自然や生き物を身近に感じる市民の割合(※2)を50%以上にするとともに、生物多様性保全に貢献する取組みを行う市民等を増やしていく。

※1「生物多様性の保全と持続可能な利用」とは、豊かな生物多様性を保全し、その恵みを将来にわたり享受できる自然共生社会の取組み

※2「自然や生き物を身近に感じる市民の割合」とは、都市にいながらも日々の暮らしの中で、自然や生き物との関わりを実感できる市民の割合



■ 新たな大阪市生物多様性戦略のポイント

○市民等へのわかりやすさの向上

・体系を簡素化し、内容を充実させるとともに、コラムや事例等の追加などを通じて、市民等への分かりやすさを向上。

○国内外の動向等の挿入

・ウィズコロナ・アフターコロナの社会への対応をはじめ、ポスト2020生物多様性枠組や次期生物多様性国家戦略で直面する課題について記載。

※IPBES地球規模評価報告書（令和元年5月）、地球規模生物多様性概況第5版（GB05）（令和2年9月）、ポスト2020生物多様性枠組0.2ドラフト（令和2年9月）について、コラムにて掲載。

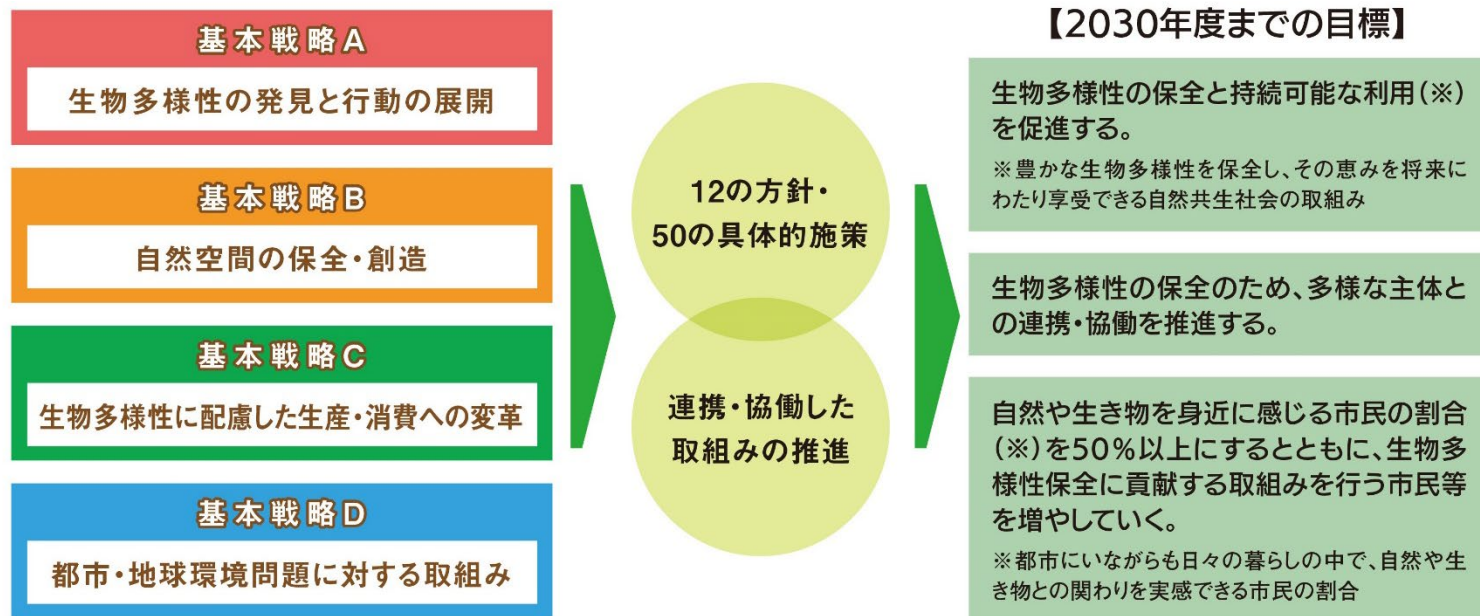
・2018年3月以降の大阪市における取組みについて、「大阪市環境基本計画」の策定、「SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業」への選定、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の策定について記載。



めざすまちの姿の実現に向けて

○新たに2030年度までの目標を定めるなどにより、2050年の大阪市のめざすまちの姿「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現をめざし、4つの基本戦略を掲げ、市民、環境N G O / N P O、事業者など様々な主体との連携・協働した取組みを進めるとともに、各主体が行う取組みの情報発信を行います。

○2030年度までの目標においては、現行戦略のさらなる推進、強化を図ることにより、生物多様性の重要性を認識し、身近に取り組める行動に移していきます。



2050年めざすまちの姿
「生物多様性の恵みを感じるまち」



4つの「基本戦略」に基づく12の「方針」、50の「具体的施策」

基本戦略A 生物多様性の発見と行動の展開

方針Ⅰ：身近なところで生き物・植物の発見	小学校生き物さがし、大阪市域の身近な場所での生き物調査等
方針Ⅱ：自然体験を通じ、身近な都市の魅力としての気づきを促す取組み	自然体験観察園を用いた環境学習講座、水辺教室等
方針Ⅲ：環境教育・啓発	おおさか環境科、出前講座、HPやSNSを用いた情報発信等



小学校での生き物さがし

基本戦略B 自然空間の保全・創造

方針Ⅰ：生物多様性の保全	市営公園、干潟、湿地等の維持管理、外来生物対策等
方針Ⅱ：生き物の生息・生育空間である生態系ネットワークの拠点(エリア)の創出	市民ボランティアと協働した花苗の育苗、建築物の新築にかかる緑化協議等
方針Ⅲ：生態系ネットワークの形成と広域連携の取組み	街路樹の保全・育成、市営公園等の維持管理、大阪湾再生推進会議・寝屋川流域協議会への参画



種から育てる地域の花づくり

基本戦略C 生物多様性に配慮した生産・消費への変革

方針Ⅰ：暮らしと生物多様性の関わり発信	区役所における食育講座、なにわ伝統野菜にかかる講座の実施等
方針Ⅱ：民間事業者の生物多様性の取組みの促進	「大阪市環境表彰」制度の活用、HPを用いた情報発信等
方針Ⅲ：生物多様性に配慮した生活への変革	「食べ残しゼロ」の推進に関する協定締結、食品ロス削減の啓発、生物多様性保全に貢献している認証制度についての情報発信等



食品ロス削減に向けた取組み

基本戦略D 都市・地球環境問題に対する取組

方針Ⅰ：都市環境問題に対する取組み	ヒートアイランド対策、海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロ、水環境モニタリング、市民ボランティアと協働した清掃活動等
方針Ⅱ：地球温暖化に対する取組み	大阪市地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)に基づく取組みの推進
方針Ⅲ：国際貢献	Team Osakaネットワークによる取組み、海外現地調査・海外からの視察受入れ等



国際貢献(政策対話) 6



いま、 生物多様性が 危ない

生態系に及ぼす影響が懸念されているプラスチックごみ



生物多様性は4つの危機に面しており、私たちの消費活動、経済活動と生物多様性の損失は密接に関係しています。新たな危機として、海洋プラスチック汚染があります。また、新型コロナウイルス感染症拡大をうけ、生態系や野生生物の利用を管理し、健全な生態系と人の健康を促進する生物多様性を包括する「One Health (ワンヘルス)」への移行が必要であると言われています。

生物多様性の4つの危機

1 開発等人間活動による危機



森林伐採

2 自然に対する働きかけの縮小による危機



手入れされずに竹が侵入した人工林

3 人間により持ち込まれたものによる危機



オオクチバス

ヌートリア

4 地球環境の変化による危機



1978年



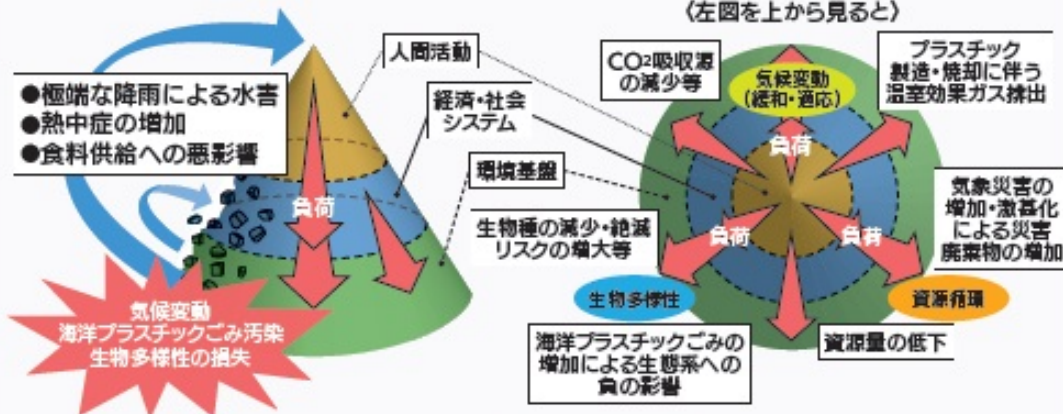
2006年

氷河の減少

全国地球環境白書(国土交通省環境政策センターホームページ)
(<http://www.jocoo.go.jp/>)

人間活動、社会・経済システム、環境基盤の相互関係のイメージ

(左図を上から見ると)



出典: 2020 年度 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書(環境省)をもとに作成

One Health (ワンヘルス)

動物と人及び環境の分野が協力して、人・動物の健康を促進



出典: United Nations Environment Programme and International Livestock Research Institute(2020)をもとに作成

比較的最近提唱された用語で、人、動物、環境の3つの衛生(健康・健全性)の達成に統合的に取り組む「One Health(ワンヘルス)」という考え方



「たこ焼き」も 生物多様性の おかげ



たこ焼きは、世界の生物多様性の恵み。タコはモロッコやモーリタニアから、小麦はアメリカ、カナダ、オーストラリアなどから輸入されています。

私たちの暮らしは、生物多様性のもたらす恵み「生態系サービス」に支えられています。例えば、大阪名物「たこ焼き」に欠かせないタコは、海の供給サービスのひとつです。江戸時代には諸国の食材があつまる「天下の台所」として栄えた大阪は、豊かな食材の数々から生まれた食文化など、様々な形で生物多様性の恵みを受けています。

生物多様性の4つの恵み

1 供給サービス



ヤマトシジミ
私たちが生きていく上で必要な食べ物、衣類、燃料などを提供するはたらき

2 調整サービス



森林による土砂崩れ防止、洪水防止など、環境を制御し安定させるはたらき

3 文化的サービス



深江の曾主
文化面や精神面において私たちの生活を心豊かで楽しいものにするはたらき

4 基盤サービス



光合成による酸素供給や土壌の形成など、生命が生存する基盤を提供するはたらき



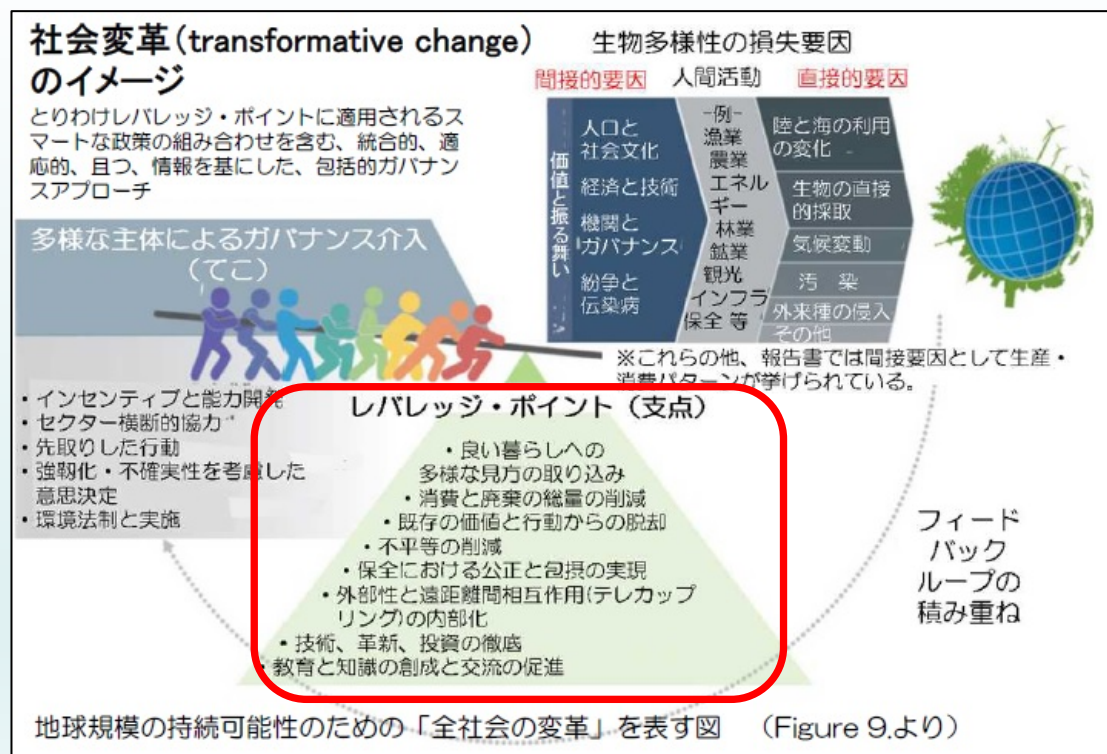
北前船などが運ぶ日本各地の食材によって生まれた大阪の食文化も、生物多様性の恩恵のひとつ。

菱垣新綿番船川口出帆之図



IPBES評価報告書で示された世界の生物多様性の主な状況

- 生物の多様性と生態系が人類にもたらす機能やサービスは世界的に劣化している
- 自然変化を引き起こす要因（直接的要因・間接的要因）は過去50年間で加速
- 生物多様性保全と持続可能な利用に関する国際的な目標達成にむけては、経済・社会・政治・科学技術における横断的な「社会変革（transformative change）」が必要

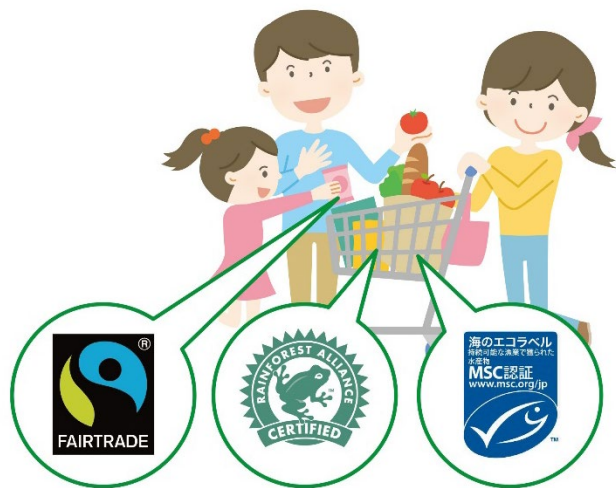


さらに・・・気候変動、海洋プラスチックごみ汚染など問題等

普段の生活の中で誰でもできる変革を進めていくことが、世界の生物多様性に好影響を与える



◆買い物は、エコラベル商品(生物多様性に配慮している商品)に注目して、毎日の暮らしから変えてみましょう。



私たちが利用する多くの商品は、世界各地での資源の採取、運搬、生産、流通などの過程を通して、私たちの手元にたどりつきます。これらの過程では国内外の生物多様性に様々な影響を及ぼします。

◆商品の選択以外にも・・・生物多様性保全に貢献する取り組みを行いましょう。

省エネなど
地球温暖化防止に配慮した
ライフスタイルを心がける



ごみ捨てなどのマナーを守り、
自然を汚さない



まだ食べられるのに
捨ててしまう
「食品ロス」などの
無駄な消費をなくす

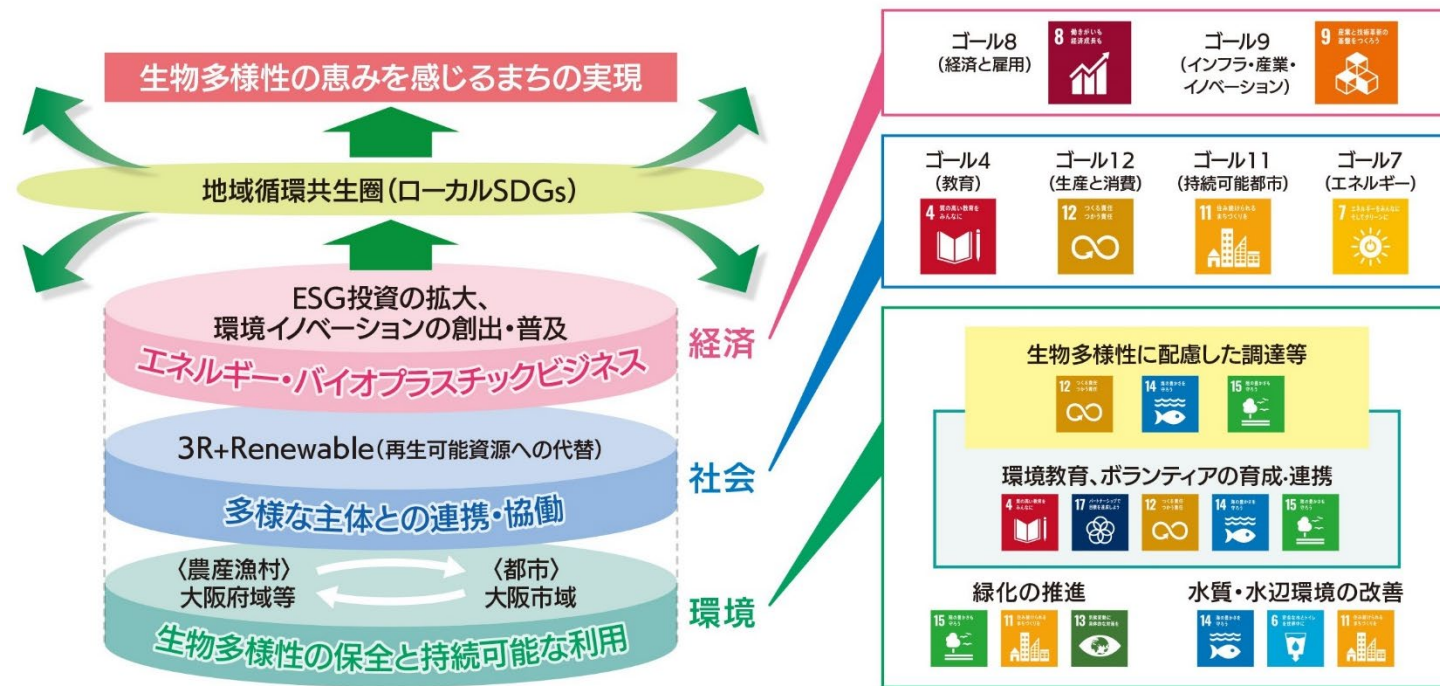


地産地消を心がけ、
旬の食材や自分が住んでいる
地域でとれたものを食べる

海、山、川などに行き、
身近な自然を楽しく経験する



大阪市生物多様性戦略の推進(地域循環共生圏)

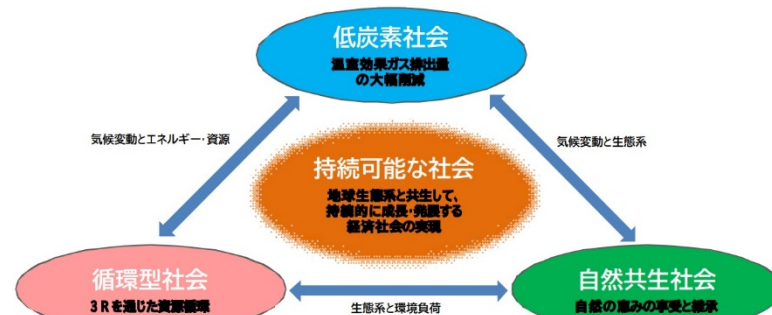


SDGsを基盤とする経済と社会と環境の好循環に貢献する持続可能なまちづくりを加速

「地域循環共生圏」とは、各地域が足もとにある地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、環境・経済・社会が統合的に循環し、地域の活力が最大限に発揮されることをめざす考え方であり、地域でのSDGsの実践(ローカルSDGs)をめざすものです。

大阪市は、都市機能が集積しており、生活サービス機能などを維持するため、多くの自然資源を消費しています。自然資源を大量に消費する大都市として、生物多様性の保全や持続可能な利用を促進するための施策を展開する必要があります。その際、近隣地域等と共生・交流し、より広域的な自然や経済的なつながりを構築することで、地域資源を補完し、支えあいながら農山漁村も都市も活かす地域循環共生圏(ローカルSDGs)づくりにつながります。

参考:持続可能な社会に向けて(2012.1月 大阪市環境審議会資料 抜粋)



出典:「21世紀環境立国戦略」をもとに大阪市作成

- ご清聴ありがとうございました -

大阪市生物多様性戦略(2021-2030)



SDGs 未来都市

～2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs 先進都市」の実現に向けて～

